

「東南アジア青年の船」事業

【経緯】日本政府とASEAN各回国との共同事業として発足し、約50年の歴史のある事業

- ▶ 1974年の日本とASEAN各回国との共同声明を契機に、日本政府とASEAN各回国の共同事業として開始。
- ▶ 1974年（第1回）は、当時のASEAN加盟国の5か国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ）と日本の6か国で実施。その後、1985年にブルネイ、1996年にベトナム、1998年にラオス、ミャンマー、2000年にカンボジア、2026年に東ティモールが加入。

【概要】船内や寄港国での活動を通じて、国際化が進展する社会で指導性を發揮できるリーダーを育成する

- ▶ 「日本国内活動」、「船上活動」及び「寄港地活動」で構成。
- ▶ 日本及びASEAN諸国の青年が、船上や日本国内、寄港国において共同生活を行いながら、世界的な社会課題に関するディスカッションや文化交流、政府要人への表敬訪問、寄港国青年との交流、ホームステイなど各種の交流活動を行う。

プログラムの流れ（イメージ）

参加国：日本及びASEAN諸国（ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、東ティモール民主共和国、ベトナム社会主義共和国）

参加青年：日本青年20名、ASEAN青年各16名（18歳～30歳） *令和7年度の東ティモールは6名

①日本国内活動（約10日間）

東京プログラム

参集式、総理表敬、御引見、課題別視察 等



総理表敬

地方プログラム

表敬訪問、ホームステイ、地元青年との交流活動 等



地方プログラムの様子

②船上活動（約30日間）

出航式

ディスカッション
文化交流
成果発表 等



ディスカッションの様子

寄港地活動（約5日間×2か国）

表敬訪問、ホームステイ
課題別視察、現地青年との交流活動等



ASEAN事務局視察の様子

【令和6年度】

- 参加国：日本及びASEAN諸国 *ミャンマーは不参加
- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 本体プログラム | : 11月4日～12月10日 |
| 日本国内活動 | : 11月4日～6日、12月4日～10日 |
| (地方：①奈良県、②高知県、③熊本県、④北九州市、⑤函館市) | |
| 寄港地活動（ベトナム） | : 11月14日～17日 |
| 寄港地活動（インドネシア） | : 11月21日～25日 |

【令和7年度（予定）】

- 参加国：日本及びASEAN諸国 *ミャンマーは不参加
- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 本体プログラム | : 1月15日～2月17日 |
| 日本国内活動 | : 1月15日～1月24日 |
| (地方：①岩手県、②千葉県、③富山県、④徳島県、⑤長崎県) | |
| 寄港地活動（シンガポール） | : 2月4日～8日 |
| 寄港地活動（タイ） | : 2月11日～17日 |

内閣府青年国際交流事業の概要

日本青年及び各国青年を対象に、世界的な社会課題に関するディスカッションや視察、文化交流等からなるプログラムを実施することにより、日本青年を国際社会や地域社会で活躍する次世代グローバルリーダーに育成するとともに、各国との友好親善の強化を図る。

事業名	事業の内容
国際社会青年育成事業	<p>● 経緯 昭和34(1959)年の上皇上皇后両陛下の御成婚に由来し、平成5年の天皇皇后両陛下の御成婚を記念する事業として平成6年度より実施してきた「国際青年育成交流事業」を、お代替わりを契機に発展させたもの。</p> <p>● 内容 国際社会や地域社会の担い手として、様々な社会課題の解決に向けて国際的視野を持って貢献できる人材を育成するため、世界各国が共通して抱える社会課題についてテーマを設定し、日本青年を当該テーマについて特徴的な取組を行う国々に派遣するとともに、当該派遣国の青年を我が国に招へいし、現地の青年とのディスカッションや文化交流等の活動を行う。</p>
日本・中国青年親善交流事業	<p>● 経緯 昭和53(1978)年の日中平和友好条約の締結を記念し、昭和54(1979)年度から両国政府が共同して実施。</p> <p>● 内容 日本・中国両国の青年が相互に相手国を訪問し、ディスカッション、政府機関等表敬、施設訪問、文化交流等の活動を行うことにより、両国青年の相互理解と友好の促進を図る。</p>
日本・韓国青年親善交流事業	<p>● 経緯 昭和59(1984)年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨及び昭和60(1985)年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、昭和62(1987)年度以来、韓国政府との共同事業として実施。</p> <p>● 内容 日本及び韓国の青年が相互に相手国を訪問し、青年との交流、産業・文化・教育施設訪問等、各種の活動を行うことにより、両国青年相互の理解と友好の促進を図る。</p>
青年の船交流事業 (「東南アジア青年の船」事業 「世界青年の船」事業)	<p>● 経緯 「東南アジア青年の船」事業は、昭和49(1974)年の日本と東南アジア諸国との共同声明に基づき、日本政府とASEAN各 government の共同事業として開始。「世界青年の船」事業は、昭和42(1967)年度に明治百年記念事業の一つとして開始された「青年の船」事業に由来し、発展的に改組されてきたもの。</p> <p>● 内容 日本及び外国の青年が船内での生活や寄港地における活動を共にしながら、各国が共通して抱える社会課題の研究・ディスカッションや各種の交流活動を行う場を提供することにより、日本青年を、国際的視野を携え、国際社会・地域社会が抱える課題の解決に向けて指導性を発揮できる人材へと育成するとともに、青年相互の友好と理解を促進し、国際親善を図る。</p>

令和7年度 内閣府 青年国際交流事業

参考資料

日本青年を**国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバルリーダー**に育成することを目的に、世界的な社会課題についてのディスカッション能力の向上や国際社会での実践力の向上を図る。

事業	経緯	交流対象国・交流期間	国内受入県	参加青年（定員）
国際社会 青年育成事業 (18歳～30歳) ※テーマに関する 実務に従事している者は 40歳まで対象	<ul style="list-style-type: none"> ○上皇上皇后両陛下の御成婚記念事業として開始し（1959年）、天皇皇后両陛下の御成婚（1993年）、御代替わり（2019年）を契機に事業を発展 ○御代替わり後初めて、天皇皇后両陛下が行幸啓（2024年） 	<p>【交流国】 テーマⅠ 障害者分野：イタリア テーマⅡ 高齢社会分野：ドイツ テーマⅢ バリアフリー・ユニバーサルデザイン分野：フランス</p> <p>【交流期間】 外国派遣：9/14～23（10日間） 日本招へい：9/18～28（11日間） ※9/24～26は、派遣青年と招へい青年の共同プログラム</p>	(テーマⅠ) 新潟県 (テーマⅡ) 鳥取県 (テーマⅢ) 大分県	日本青年：24人 (各8人×3か国) 外国青年：24人 (各8人×3か国)
日本・中国 青年親善交流事業 (18歳～30歳)	<ul style="list-style-type: none"> ○日中平和友好条約締結（1978年）を契機に、日中両国政府の共同事業として開始（1979年） 	<p>【交流国】 中華人民共和国</p> <p>【交流期間】 ①東京プログラム：11/4～8（5日間） ②北京プログラム：11/9～13（5日間）</p>	埼玉県	日本青年：15人 中国青年：15人
日本・韓国 青年親善交流事業 (18歳～30歳)	<ul style="list-style-type: none"> ○日韓共同声明（1984年）・国交正常化20周年（1985年）を契機に、日韓両国政府の共同事業として開始（1987年） 	<p>【交流国】 大韓民国</p> <p>【交流期間】 韓国派遣：10/20～29（10日間） 日本招へい：11/18～27（10日間） ※11/25～27は、派遣青年と招へい青年の共同プログラム ※11/26には、国交正常化60周年記念セレブレーションを開催</p>	大阪府 山形県	日本青年：20人 韓国青年：20人
「東南アジア 青年の船」事業 (18歳～30歳)	<ul style="list-style-type: none"> ○日本とASEAN各国との共同声明を契機に、日本政府とASEAN各国政府の共同事業として開始（1974年） ○日ASEAN首脳会議等の成果文書において、累次にわたって言及あり 	<p>【交流国】 ASEAN諸国 ※ミャンマーは不参加</p> <p>【交流期間】 2026/1/16～2/17（33日間） ※東京にて乗船し、タイ・バンコクにて下船予定 ※訪問国活動は、シンガポール5日間、タイ7日間</p>	岩手県 千葉県 富山県 徳島県 長崎県	日本青年：20人 ASEAN各国青年：150人 (各16人×9か国 +東ティモールは6人)
「世界青年の船」 事業 (18歳～30歳)	<ul style="list-style-type: none"> ○明治百年記念事業の一つとして、「青年の船」事業を開始（1968年） ○「世界青年の船」事業として再編（1988年） 	<p>【交流国】 世界12か国 カメルーン、カナダ、チリ、ドミニカ共和国、 ギリシャ、インド、ジャマイカ、モンゴル、 モザンビーク、ニュージーランド、パラオ、スペイン</p> <p>【交流期間】 2026/2/15～3/12（26日間） ※タイ・バンコクにて乗船し、東京にて下船予定 ※寄港地活動は、沖縄県3日間、愛知県5日間</p>	愛知県 沖縄県	日本青年：80人 世界12か国青年：96人 (各8人×12か国)

○ 国内：日本青年国際交流機構（IYEO）【会員数 約10,000人】、全国47都道府県別組織あり
 事後活動 ○ 国外：東南アジア青年の船同窓会（国際組織（SI）：日本+ASEAN 10カ国同窓会加盟）【事業参加累計：約13,000人】
 世界青年の船同窓会（国際組織（SWYAA国際連盟）：日本+34か国同窓会加盟）【事業参加累計：約15,000人】

令和7年度 「東南アジア青年の船」事業 日程及び航路

◆参加青年等：181名（ナショナル・リーダー含む）

・日本参加青年21名

・外国参加青年等160名：17名×ASEAN10か国（※東ティモールは7名、ミャンマー除く）

航海日数	月　日	事　項
第1日	1月 15日 (木)	ASEAN各国ナショナル・リーダー、参加青年来日
第2日	16日 (金)	オリエンテーション、参集式
第3日	17日 (土)	地方プログラム①(表敬、ホームスマッッチング、ホームステイ)
第4日	18日 (日)	地方プログラム②(ホームステイ) <small>(ホームステイ)</small>
第5日	19日 (月)	地方プログラム③(ホームステイ、交流会) <small>【ファシリテーター来日】</small>
第6日	20日 (火)	地方プログラム④
第7日	21日 (水)	東京プログラム
第8日	22日 (木)	東京プログラム
第9日	23日 (金)	東京プログラム
第10日	24日 (土)	東京プログラム
第11日	1 25日 (日)	乗船
第12日	2 26日 (月)	出国手続、出航式、東京出航
第13日	3 27日 (火)	航海 1
第14日	4 28日 (水)	航海 2
第15日	5 29日 (木)	航海 3
第16日	6 30日 (金)	航海 4
第17日	7 31日 (土)	航海 5
第18日	8 2月 1日 (日)	航海 6
第19日	9 2日 (月)	航海 7
第20日	10 3日 (火)	航海 8
第21日	11 4日 (水)	シンガポール入港
第22日	12 5日 (木)	寄港地活動
第23日	13 6日 (金)	寄港地活動
第24日	14 7日 (土)	寄港地活動 <small>(ホームステイ)</small> <small>【事後活動組織代表者乗船】</small>
第25日	15 8日 (日)	シンガポール出港
第26日	16 9日 (月)	航海 9
第27日	17 10日 (火)	航海 10
第28日	18 11日 (水)	バンコク(タイ)入港
第29日	19 12日 (木)	寄港地活動
第30日	20 13日 (金)	寄港地活動
第31日	21 14日 (土)	寄港地活動 <small>(ホームステイ)</small> <small>【管理部員下船】【政府代表者到着】</small>
第32日	22 15日 (日)	寄港地活動 関係各国連絡会議@ホテル(バンコク)
第33日	23 16日 (月)	成果発表会、サマリーフォーラム、解散式、解散交歓会@ホテル(バンコク)
第34日	24 17日 (火)	日本及びASEAN各政府代表者、ナショナル・リーダー、参加青年、事後活動組織代表者、ファシリテーター、帰国

*日程は諸事情により変更になる場合があります。



*天候やその他の事情で航路が変更となる場合があります。